

## 平成 1 1 年度試験研究成果

区分	普及	題名	平成 12 年度雑草防除基準に採用した飼料用とうもろこし用除草剤「ハロスルフロンメチル水和剤」		
<p>[ 要約 ]                  強害雑草「イチビ」に卓効を示す「ハロスルフロンメチル水和剤」を平成 12 年度雑草防除基準に採用する。</p>					
キーワード	雑草防除基準	とうもろこし	イチビ	畜産研究所飼料生産研究室	

### 1 . 背景とねらい

近年、牧草地や飼料畑に外来雑草が蔓延し、地域によってはその大発生により被害の出ている地域も少なくない。これら外来雑草のうちイチビは異臭がするため、サイレージに混入した場合には家畜の嗜好性が低下し、牛乳中にもこの異臭が移行することが知られている。また、とうもろこしとの間に競合が生じ減収の原因にもなる。

飼料作物分野では他の農作物に比べて適用登録のある農薬が少ないが、本年、飼料用とうもろこし用として新たに「ハロスルフロンメチル水和剤」が登録され、特にイチビに対して除草効果が高く、実用性が認められた。

### 2 . 技術の内容

#### ( 1 ) 薬剤の名称・特徴

ア．商 品 名：シャドー水和剤

イ．種 類 名：ハロスルフロンメチル水和剤（試験名：NC - 331L水和剤）

ウ．作用機作：茎葉部、根部より吸収され、アミノ酸合成阻害による殺草。

エ．有効成分：ハロスルフロンメチル 5%

オ．毒 性 等：人畜毒性 普通物、魚毒性 A類相当

カ．薬剤性状：白色結晶

#### ( 2 ) 対象作物 飼料用とうもろこし

#### ( 3 ) 使用方法 飼料用とうもろこしの 3 ~ 5 葉期に薬剤を水で希釈し、茎葉散布する。

#### ( 4 ) 使用基準

作 物 名	使用方法	使用時期	10 a 当たり散布量	使用回数の制限
飼料用とうもろこし	茎葉処理	イチビ 2 ~ 5 葉期	50 g	1 回
		とうもろこし 3 ~ 5 葉期	希釈水量 100 l	

### 3 . 普及上の留意事項

( 1 ) 茎葉処理剤として使用する。

( 2 ) 有機りん系殺虫剤との 7 日以内の近接散布は薬害が生じる場合があるので避ける。

( 3 ) 散布直後の降雨により薬害を生じることがあるので天候を見極めて使用する。

( 4 ) 本剤はイチビのほかキハマスゲに効果があるが、その他の雑草には効果が低い。したがって他の雑草が多い場合には土壌処理剤との体系で使用する。

( 5 ) 使用後はタンクやホース、ノズル内に薬液が残らないよう散布器具は十分に洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないよう注意する。

( 6 ) てんさい、あぶらな科作物に対し薬害を生じる恐れがあるので飛散しないように注意して散布する。

( 7 ) 加工用、生食用とうもろこしには使用しない。

( 8 ) 使用は 1 回とする。

### 4 . 技術の適応地帯

県下全域。

### 5 . 当該事項に係る試験課題

[ 草地飼料 1 ] 1 - ( 2 ) - ア とうもろこし奨励品種決定基本調査

### 6 . 参考資料・文献

7. 試験成績の概要

(1) 畜産研究所における試験成績

ア 耕種概要

(ア) 圃場種別：普通畑 土壌型：厚層腐植質黒ボク土

(イ) 作物：飼料用とうもろこし(品種N3624)

(ウ) 方法

5月21日 1区当たり面積 12 m<sup>2</sup> 2反復

とうもろこし播種(播種密度 650 本/a)

雑草種子散布(a当たり)イチビ、イヌビユ、アカザ、レッドトップ各 50 g

6月17日 除草剤散布

イ 試験成績

区番	処 理 区	処理量 (g/ml または ml/a)	除草効果 7/24 調査					残草量無処理区比(%) 合計	薬害
			イチビ	イヌビユ	アカザ類	広葉計	レッドトップ		
1	シャド-	5.0 g	5	16	106	30	66	56	無 無 無 無 無
2	シャド-	6.0 g	5	6	148	30	86	71	
3	デュアル+ゲザプロムフロアブル(生育)	30ml+15ml	27	24	0	20	0	5	
4	デュアル+ゲザプロムフロアブル(土壌)	30ml+15ml	27	57	10	46	0	12	
5	ゲザノンフロアブル	40ml	45	53	0	43	0	11	
6	無処理		28	203	47	278	799	1077 g/m <sup>2</sup>	

区番3の(生育)は生育期処理(6/17:とうもろこし5.5葉期)により処理した。

区番4の(土壌)はゲザプロムフロアブルのとうもろこし播種後出芽前の混用処理(5/22)

(2) 他機関における試験成績

年次	試験場所	田畑別(品種)	土質土性	処理方法	処理時期	調査日	使用量 ml/g/a	イチビ(生草重対無処理区比)	薬害
6	岩手農試 県北分場	畑 (ハイア 3540)	黒ボク 土 壤  植壤土	茎葉 処理	6/2 イチビ 1~3L ソザ 2L イヌビユ 1~2L	7/11	生 重 無処理	----- 193 g	
							5.0 g	0 %	
							7.5 g	0	
							10.0 g	0	
		(比)アトジン水和剤	15.0 g	11	無				
8	植 調 岩手試験 地	畑 (ハイア 3352)	火山灰 土  壤土 (適湿)	茎葉 処理	+24日 6/14 (イチビ 2~4L)	7/7	生 重 無処理	----- 468.5 g	黄化極微 回復 早 黄化極微 回復 早 黄化中 回復 遅 無
							5.0 g	t %	
							7.5 g	t	
							10.0 g	0	
		(比)アトジン-トラクロルフロアブル	40.0ml	15					